

高齢化する障害のある人と医療・地域の暮らしに関する調査研究

社会福祉法人 わたぼうしの会

〒630-8044 奈良県奈良市六条西 3 丁目 25 番 4 号

助成事業の概要

本事業は、「障害のある人の ACP や意思決定支援」「住み慣れた地域で自分らしく暮らし続ける」ということをテーマに始まりました。

はじめに、福井県にある「オレンジキッズケアラボ」への見学、奈良市で訪問診療を行っている「なないろクリニック」の池島医師へのヒアリングを実施しました。

その後、「いざというとき」「親なきあと」のことなどについて、研究会を実施しました。障害のある人の高齢化、親なきあとの問題に取り組んでおられる各地の施設への視察も行いました。

さらに、いざというときのことだけを考えるのではなく、日々を豊かに暮らすために、「食べること」と「出すこと（排泄）」に関する研究会を開催しました。食べることについては視察や試食会も実施しました。

さいごに、今回の取り組みを報告書にまとめ、関心を寄せていただける方と共有するツールをつくりました。報告書作成の過程では、普段ケアに従事しているスタッフにイラストやデザインを担当してもらうなどの取り組みも行っています。

事業の成果

「障害のある人の高齢化・いざというとき・親なきあと」と「食べること・出すこと」という2つのテーマに分けて事業を実施しました。

◎障害のある人の高齢化・いざというとき・親な

きあと

○研究会

・親なき障がい者の未来を MAMORU『ゆいごん白書 (R)』を学ぶ

辻瑞恵さん（株式会社はっぴい and プロジェクト 代表取締役）／2025 年 11 月 25 日

・成年後見制度だけではない、親なきあとへの備え

平方貴之さん（司法書士法人 LSR コンサルティング 代表社員・司法書士）／2026 年 3 月 3 日

○施設見学

・オレンジキッズケアラボ（福井県福井市）2025 年 5 月 10 日

・社会福祉法人明桜会「あいすくりーむの家」（兵庫県明石市）2025 年 10 月 23 日

・特定非営利活動法人 W・I・N・G 路をはこぶ（大阪府大阪市）2025 年 11 月 6 日

・社会福祉法人杉の子福祉会 レジデンスはぎのもり（大阪府高槻市）2025 年 12 月 5 日

・社会福祉法人いぶき福祉会（岐阜県岐阜市）2026 年 1 月 15 日

・特定医療法人フェニックス（岐阜県各務原市）2026 年 1 月 15 日

・医療法人かがやき「総合在宅医療クリニック／かがやきキャンプ」（岐阜県岐南町）2026 年 1 月 16 日

○インタビュー

・続・高齢化する障害のある人のリアル：上野久美さん、山下京子さん（CIL スタート奈良）

・親の立場からみた「親なき後」：前田妙子さん（奈

良県肢体不自由児者父母の会連合会会長)

・在宅医療について：池島英之さん（なないろクリニック）

・福祉ホームでの ACP の実践：小林説美さん（福祉ホームコットンハウススタッフ）

◎食べること・出すこと

○研究会

・POO マスターに学ぶ 気持ちの良い排泄・排泄ケアってなんだろう？

久保田 千代美さん（Chiyomi Kubota Care 研究所 代表）／ 2025 年 10 月 15 日

・「脳性麻痺の高齢化と摂食嚥下の『サイン』を読み解く」 ～注入食から食形態まで、みんなで考える“身体の中で起きていること～

豊田綾子さん（機能強化型認定栄養ケアステーション DRD 代表理事・管理栄養士）／ 2026 年 2 月 17 日

○施設見学

・カムカムスワロー（岐阜県岐阜市）2026 年 1 月 15 日

・あさひ Ya カフェ（奈良県奈良市）2026 年 3 月 10 日

○嚥下食体験

成果の広報・公表

今回実施した調査研究に関する報告書「つむぐ つながる～高齢化する障害のある人と医療・地域の暮らしに関する調査研究報告書」を 500 部印刷しました。関心をもっていただいた個人や団体に配布、当法人で行うイベント等での配布を予定しています。これまで実施した調査研究事業でも、報告書を通じて問題意識の共有を図ることができたので、今回も多くの方と共有したいと思います。また、法人で発行している広報誌では、研究会の内容や先駆的事例の調査などの記事を掲

載、インスタグラム等の SNS では研究会のご案内等を掲載してきました。報告書の発行についても掲載予定です。

研究会の開催時には、奈良市内の相談支援事業所や障害者支援事業所にメール、ちらし等で広く広報を行ったことにより、興味をもった方とつながることができました。身近な場所でも、障害のある人の高齢化、親なきあとの問題について関心の高さを感じました。今後も問題意識を共有する方々と学びの場をつくっていきたいと考えています。

今後の展開

今回の調査研究で得た知見をもとに、当法人の福祉ホームに居住する障害のある人たちとご家族と、いざというときのことを考え、語る場をもうける予定です。高齢化がすすんでおり、いざというときのことを考えるには待ったなしの状況ということを改めて感じています。

また、各地の取り組みを視察させていただくなかで感じたことは、障害のある人や高齢の人を対象にした施設が、施設として存在するだけでなく、社会的に孤立せずに生きることができるよう地域の人をつなぐ場として機能しようとする姿でした。カフェ、ワークショップ、フィットネスクラブ、働く場など、そのかたちはさまざまでした。

現在、当法人では「アート&ケアコミュニティプロジェクト」を始動させ、人と人が「アート&ケア」で出会い、つながりをつくり、活動できる場づくりをめざしています。そのなかで、障害のある人の高齢化についても考える場をもち、障害があってもなくても豊かな暮らしを送れるよう、学びの場をつくっていきたいと思います。